

指定管理者運営評価シート

年度	令和2年度
担当課	観光振興課

1 公の施設

施設名称	佐賀市やまびこの湯
所在地	佐賀市三瀬村藤原3929番地2
施設概要	温泉を使用し地域住民の健康及び福祉の増進を図るために、憩いと交流の場として親しまれ、かつ、観光及び産業の振興に寄与し、地域の活性化に資することを目的とする施設。 営業時間 10時～21時 毎月第2水曜日定休日（祝日の場合翌日）

2 指定管理者及び業務内容

指定管理者	団体名	株式会社 創裕	選定方法	公募
	所在地	香川県高松市朝日新町17番15号	利用料金制	導入
指定期間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日			
施設の運営・維持管理の業務	○運營業務 施設の開館及び閉館、入館者の受付・接客対応、利用促進、安全の確保及び緊急時の対応、印刷物の発行、入館者からの意見聴取 ○維持管理業務 施設・設備の監視・運転、源泉施設等の管理、施設・設備の保守点検、衛生管理、清掃、警備、施設・設備の修繕、備品等の管理			

3 施設の利用状況

利用状況(量)を示す指標名	単位	指定期間中の実績			
		(令和元年度)	令和2年度		
① 入館者数	人	120,344	74,156		
②					
③					
④					
⑤					

4 指定管理者の収支状況

(単位:千円)

		(令和元年度)	令和2年度		
収入	指定管理料	4,500	23,347		
	利用料金収入	54,143	39,915		
	その他	20,785	16,440		
	計	79,428	79,702		
支出	支出	92,862	83,408		
	うち修繕費	204	1,915		
	うち人件費	33,168	35,323		

5 個別評価

- ◎評価基準
- A・・・要求水準を概ね満たしている
 - B・・・要求水準を一部下回っている（改善が必要）
 - C・・・要求水準を大幅に下回っている（相当程度の改善が必要）

	評価項目	評価の視点	評価
1	運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・市の方針、施設の設置目的等を的確に理解し運営されているか。 ・利用者が平等に利用できるよう適正な利用許可がなされているか。 	A
2	法令・協定書等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・関係法令、協定書等を遵守されているか。 ・労働法規等を遵守した適正な労働環境が確保されているか。 ・提案した事業計画の内容を適切に実施されているか。 	A
3	個人情報保護	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護条例を遵守し、利用者の個人情報の適正な管理が実施されているか。 	A
4	職員の配置および実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・人員の配置、有資格者等の配置は適切であるか。 ・業務に対する研修等の必要な職員教育が行われているか。 	A
5	連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営業務全般について、市への適切な報告・連絡等ができているか。 	A
6	維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安全快適に施設を利用できるよう、建物・設備の保守や修繕、清掃等が適切に実施されているか。 	A
7	安全対策・危機管理対策	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の警備体制は適切であるか。 ・マニュアルの整備や関係機関との連絡体制の確立など、非常時・緊急時における必要な手立てが講じられているか。 	A
8	経理の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・経理区分を明確にし、適正な経理処理が実施されているか。 ・収支計画と比較して大きな差異がないか。 ・必要な経費節減の取組が実施されているか。 	B
9	利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者サービス向上のための効果的な取組を実施できているか。 ・利用者ニーズや満足度などを把握する取組ができているか。また、利用者の声を施設の運営やサービスの向上に反映しているか。 ・利用者増加や利用率向上に向けた具体的な取組が実施されているか。 ・広報誌への掲載やチラシの作成など、有効な情報発信・PRの手立てが講じられているか。 	A
10	苦情、トラブル等対応	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情やトラブル等に対し適切かつ迅速な対応が行われているか。 	A

6 総合評価



A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年7月より自主事業としてグランピング事業を展開しており、新たな顧客の取り込みを行っている。 ・建物、機器ともに経年劣化しており、市負担分も含め、修繕料が嵩んでいる。 ・重油代や原材料費等の高騰から、経営赤字につながっている部分があり、今まで以上の経費節減や物品販売の見直し等に検討を要する。エネルギー効率の面から、ボイラー等設備の改修が必要となっている。 ・より広報・営業に力を入れるなど、集客数を増やす取組みや、スケールメリットを活かした経費の削減を期待している。
---	--